

南三陸 復興まちづくり通信

第70号 (令和2年4月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

新型コロナウイルス影響深刻 小中高臨時休業 町大震災追悼祈念式典中止 地域経済にダメージ

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、南三陸町内にも大きな影響が出てきています。

町内の小学校・中学校・高等学校は3月2日から春休みに入るまでの間、臨時休業となっています。卒業式や入学式は行われていますが、地域住民の参加がなくなる等、規模は縮小されています。

公民館や図書館等すべての社会教育施設で閉館が続いています。このうち図書館については3月24日から図書の貸出のみ再開となりました。

3月11日に予定されていた東日本大震災追悼式典は中止となり自由献花方式に変更となりました。

その他多くの行事・イベントも中止・延期となり、活動自粛によって観光や飲食業などではキャンセルが相次ぎ、地域経済にも深刻なダメージが広がっています。

このような時だからこそ、むやみに恐れるのではなく、正しい情報を共有して正しく恐れ、身を守る対策をきちんとしながら、この難局をみんなで乗り切っていきましょう。



事業内容を紹介する冊子に掲載いただきました

中日新聞社会事業団様から助成いただきました

社会福祉法人中日新聞社会事業団様より、当会の活動に支援金をいただけることとなりました。中日新聞・東京新聞の読者を中心とした企業・個人の皆様から寄せられた寄付金の中から助成いただいたものです。多くの皆様のご善意に心から感謝申し上げます。

いただいた助成金は南三陸町復興祈念公園に多くの町民が関われる仕組みづくりや、この10年間の活動の記録誌の編集等に活用いたします。

ホテル観洋で「全国語り部シンポジウム in 東北」

災害の被災地で活動する「語り部」の役割を考える「全国被災地語り部シンポジウム」が2月24・25の両日、志津川ホテル観洋を会場に開催され、東北や関西などで活動する関係者が参加しました。

語り部の未来をテーマにしたパネルディスカッションでは、復興みなさん会の後藤一磨代表がコーディネーターを務め、約400人が耳を傾けました。

2日目の事例発表では、みなさん会の工藤真弓さんが椿をテーマにした活動について報告(=写真)しました。



戸倉復興公営集会所でけんちん汁交流会

戸倉復興公営住宅の集会所で2月17日、復興みなさんが主催する交流会「椿油でけんちん団子を作ろう」が開かれ、入居者など17人が参加しました。朝の体操をした後、調理を開始。椿油を使って大根、人参、ゴボウなどの野菜やキノコの入ったけんちん団子を作り、和やかに会食しました。出来上がるまでの間は、犬棒カルタやシルバー川柳カルタをして楽しみました。椿油は昨年秋に町内で拾ったタネから絞ったもので、12kgから20採れました。



多賀城市で第3回大規模災害公営住宅自治会交流会

岩手、宮城両県に整備された大規模災害公営住宅（100戸以上）の自治会役員を対象とした交流会が2月11日、多賀城市鶴ヶ谷の災害公営住宅集会所で行われ、支援者を含めて約100人が参加しました。両県の連携復興センターと岩手大学三陸復興・地域創生推進機構が共催したもので、南三陸町からは志津川中央公営住宅自治会の佐々木守会長と庶務の西條優也さんが参加。役員負担を減らすために自治会活動に関わる住民を増やす方策などについて意見を交わしました。



（意見を発表する佐々木守さん）

自然環境活用センターでオープン記念シンポジウム

震災で被災し、戸倉公民館（旧戸倉中学校）の2階を改修して復旧した南三陸町の自然環境活用センターで2月1日、オープンを記念するシンポジウムが開かれ町民約100人が参加しました。センター研究員の阿部拓三さんが志津川湾の自然環境について紹介（＝写真）した後、町内の小中学生で組織する南三陸少年少女自然調査隊メンバーの活動や戸倉小学校6年生による海での体験活動、志津川高校自然科学部の干潟調査などの発表がありました。



【あしがき】

二十四節季の暦の上では、清明を迎え、万物に清く明るく新しい春の陽気の降り注ぐ頃となりました。いつもなら、ああそういう季節だなあと、ふっくらと膨らんだ桜の花芽を仰ぎ見ながらそう思うのですが、今年の春は、その景色もどこか切なく感じられます。新型コロナウイルスの発生によって、当たり前を感じていた日々の途中で、誰もが戸惑い、立ちずくんでいます。一方、現代社会が生み出した地球温暖化によって、地球は悲鳴をあげ続けています。海洋プラスチックを減らすためにエコバックを持ち歩く位しか出来ない私達は、今、季節の巡りも味わえないほどの閉塞感を感じています。世界全体で感じていますが、もしかしたら、地球もまた、日々おなじような恐怖や不安を感じながら、この春を届けてくれているのかも知れません。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当会は今年度、中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」の支援をいただき活動しています。